

91歳 書き続け、たどり着いた人生の晩鐘(2)

佐藤愛子(作家)

2015年6月4日
NHK明日への言葉

佐藤愛子(作家)

作家の田畑麦彦さんと結婚、娘も生まれ作家としてこれからと言う時に、田畑さんが興した会社が倒産して膨大な借金を背負う事になります。

夫はこれ以上迷惑をかけないために、形だけと言い、佐藤さんと離婚、しかし別の女性と再婚したことが判ります。

佐藤さんは元夫の借金を背負い、一人で娘を育て生きていきます。

生きるためにひたすら続けた40歳代から伺います。

借金返済は？

戦場の様なものですから、辛い思いをしたのは娘だったと
みじみ思います。

倒産したのは娘が小学校2年でした。

辛い時戦争当時の歌を歌った、私の応援歌みたいなもの、愚痴みたいなもの。

「どこまで続く、ぬかるみぞ……」

娘も修羅場に巻き込まれたわけで、生きてゆく上での強さにな
ってくれればと、それだけを祈るような思いだけです。

苦労話をして泣いたりする人は割にいますが、それと対極の
ところにいるわけです、何でもおかしくしてしまう、生きるための
佐藤家の知恵だと思えます。

或るとき夫にバケツの水をぶっかけて、掴みかかってくるだ
ろうと思って階段を上って行って「恥しらず」と叫んだら、「何だ
よ靴の中に水が入ってしまっただけじゃないか」と下で
言っているが、それはおかしいでしょう、悲劇を喜劇に変えて
ゆく、佐藤家の血ですね。

四分の三は父の激情、四分の一は母の理性を受け継いでい
るのではないかと思います。

母は評論家タイプだった、アメリカとの戦争を始めた時に、父
は日本は勝つに決まっていると書いていたが、母は顔をしか
めて、負けるにきまっていると、地図を見れば判ると(国土の
大きさの差、国力)、戦争をして勝てる訳が無いと書いていた。
何とか小説を書けてこれたのは、父と母のお陰だったと、今
は思える様になりました。

小説を書く上に必要な感性は父から貰ったと思えます。

「晩鐘」の中に出てきますが、辰彦の2人の友達が家を抵当に
入れさせてくれて、そして倒産して、其人の家は取られてしま
うが、何とかして救わなければいけないと、これは父から受け
た考え方だと思えます。

無謀なことで、1000万~2000万円の肩代わりの借金をしよっ
ていて、その上に金貸しのところに行って、1500万円借りてき
て、その二人を助けなくては行けない、直木賞を貰う前で返せ
ることが出来るわけないが行動した、これは父の影響です。

二人の家庭には子供がいて、そうせずにはいられないと言う
衝動だけです、理屈ではない。

この私の性格には、母は恐ろしくて一緒にいられないと言う事
でした。

父はすべて激情、恋も怒りも、人を助けるときにも、後先を考
えずに行動する。(私の中にもある)

そのことを書いて直木賞を貰えたわけで、だから借金を返せ
るようになったわけで、我ながらぞっとします。

文壇付き合いはしていない、出来ない。

特殊な価値観の持ち主だと思う、相手がそれを判ってくれ
ば深く付き合えるが、判らないだろうなあと言う気持ちがいつ
もあるんで、一人でいる方が楽だと言う方に成ってしまう。

私はこう生きると言う事は言えるが、こうしなさいとは言えない。
孤独な老人は核家族になって、増えてきたと思う。

大家族のマイナスがあったので、それを無くそうと言う事だ
と思うが、物事は一つよければ一つ悪いことが必ず伴うので、
どっちの悪さを選ぶことだと思う。

かつて介護は身内の問題だったが、核家族になって社会の
問題になっている。

歳を取ってすることが有ると言う人は幸せだと思います。

いなかの生活は年寄りでもすることがいろいろあり元気だが、
都会の生活はすることが無い、だから孤独と向き合う、まぎれ
るものが無い。

大家族の時には年寄りの役割が有ったが、今は孤独の問題
がある。

仕事が一段落して、のんびりしてくださいと言われるが、私は
のんびりする事はどうする事か判らない人生を過ごしてきた
ので、どうする事が教えてもらわないと判らない状態だった。
最近はずることが無くて、TVも見er気が無いし、段々鬱病の
様になって来て、人間働く様に出来ているんだと言う事がつ
くづく判ってきた。

定年退職した人は鬱病になったりするが、生活のリズムが無
くなるから。

リズムを取り戻さないといけな思っていたら、「晩鐘」の出
版後のインタビュー等が一日おきにあるような生活が続いて危機
を脱した。

のんびりは生きている実感が無い。

苦労から逃げないで、かく生きたと言う事だけです。

逃げないでいると力が付くんですね、逃げていると力がつか
ない。

倒産した時に、家は取られるし、同窓会があるが行く気がしな
かった、どうしようかと思ったが、
無理してでも行きなさいと通っていた全体の先生から言われ
て、行く事にした。

夫が倒産したと言うのによく来られるねと言われた。